昭和大学歯学部だより　2017．11号

通算168号
2017．11．

発行責任者：歯学部長　宮崎　隆，編集責任者：広報委員長　中村　雅典
〒142-8555　東京都品川区旗の台1-5-8　TEL: 03-3784-8000
ホームページ：　http://www.showa-u.ac.jp

歯科医師国家試験出題基準の改訂にあたり

教育委員長　美島　健二

昭和60年に策定された歯科医師国家試験出題基準は歯科医療・歯学教育の変化に合わせて4年毎に改定され，内容の見直しが継続的に行われています．今回，平成26年度に作成された歯科医師国家試験出題基準の見直しが行われました．本改訂では，平成28年度に改訂された歯学教育モデル・コア・カリキュラムとの整合性や歯科医師臨床研修の到達目標とも整合性が図られました．また，超高齢社会における社会情勢の変化に基づき前回改訂版よりも以下の4項目についての充実化がなされました．

①高齢化等による疾病構造の変化に伴う歯科診療の変化に関する内容　②地域包括ケアシステムの推進や多職種連携等に関する内容　③口腔機能の維持向上や摂食機能障害への歯科診療に関する内容　④医療安全やショック時の対応，職業倫理等に関する内容

特筆すべき点としては，厚生労働省が国家的施策として推進する地域包括ケアシステムという言葉が新たに盛り込まれた点です．このことから，卒前教育における在宅医療やチーム医療などの包括医療に関する学修の必要性が強調されていることがわかります．さらに，これらの変更に伴いブループリントすなわち歯科医師国家試験設計表の改訂もなされました．ブループリントは国家試験問題を作問する際の具体的な指針となるもので，本内容をもとに国家試験問題の出題項目・出題数の割り振りがなされます．今回の改訂にあたり国家試験の問題数がこれまでの365題から360題とわずかながら減少しました．一方，必修問題がこれまでの70題から80題に増加し全問題に占める割合が増えました．必修問題は絶対基準での評価（正答率80％以上が合格）が行われ，基本的事項の学修の重要性が益々高まるものと考えられます．これまで必修問題の開示は行われていないので，その質を検証するためにも問題の開示を強く要求していきたいと考えます．その他の変更点としては，禁忌肢選択数が合格基準から除かれたことがあげられ，受験生の負担が多少なりとも軽減されるものと思われます．

本学の卒業試験は国家試験出題基準・ブループリントに準じて作問されており，今回の改訂に伴いD6チュータ委員長の船津先生を中心に出題内容と出題数の見直しが行われました．また，その内容については，6月に実施された卒業試験作問ワークショップにおいて各講座・部門の教員への周知がなされました．

D6学生は卒業判定Ⅰを終え，年明に実施される卒業試験Ⅲに臨みます．年末の時間を十二分に活用し，最終の卒業判定Ⅱを乗り切り，必ずや国家試験合格を勝ち取ってくれるものと強く期待しています．

平成30年度推薦・編入学試験が実施されました

入学支援課　鳥山　ちひろ

11月3日（金・祝）に，平成30年度医学部，歯学部，薬学部，保健医療学部の推薦入学試験と歯学部，保健医療学部看護学科の編入学試験が旗の台キャンパスにて行われました．

今年度，歯学部の推薦入学試験（25名募集）の志願者は66名（昨年度65名より1名増），編入学試験Ⅰ期（若干名募集）の志願者は11名（昨年度8名より3名増）と昨年度よりも上回る志願者数となりました．

当日は天候にも恵まれ特に大きなトラブルもなく，基礎学力試験に引き続き，小論文，面接の運営業務にご協力を賜りました教職員の皆さまに心から御礼申し上げます．そして，合格発表は11月7日（火）午後3時に行われ，推薦試験では35名（男10名，女25名），編入学試験Ⅰ期では2名（男2名）が合格しました．11月18日（土）には合格者へ向けたガイダンスを実施いたします．

今後の入試日程は，下記の通りとなります．1月25日（木）の選抜Ⅰ期・センター利用入試（A方式Ⅰ期）入学試験は，東京試験場（五反田TOCビル），大阪試験場（新大阪丸ビル別館），福岡試験場（南近代ビル）の3試験場にて行います．教職員の皆さまには今後ともご協力の程，宜しくお願い申し上げます．

入試種別（募集人員）	出願期間	試験日	合格発表
一般選抜Ⅰ期（44名）	12月20日～1月16日	1月25日	1月29日
センター利用入試（A方式Ⅰ期）（約10名）	12月20日～1月11日	セ:1月13･14日 面:1月25日	2月2日
編入学試験Ⅱ期（若干名）	12月20日～1月11日	セ:1月13･14日 面:1月25日	2月2日
センター利用入試（B方式地域別選抜）（6名）	12月20日～1月11日	セ:1月13･14日 小･面:2月11日	一次:2月2日 二次:2月14日
一般選抜入試Ⅱ期（約8名）	2月5日～2月21日	3月4日	3月6日
センター利用入試（A方式Ⅱ期）（約3名）	2月5日～2月21日	3月4日	3月6日

大学院説明会を開催しました

大学院運営委員長　山本　松男

昭和大学大学院歯学研究科（博士課程歯学専攻）は学年入学定員18名ですが，最近の10年ほどは各学年25名程度，4学年で100名の規模で運営されています．最近5カ年の平均学位授与数は27（甲号）です．基本的には臨床研修医が終了した後の4年間で研究を進めますが，本学では学びの多様性を拡充するために，以下のような厚いサポート体制を整備しています．社会人受入制度（最近5カ年で平均6名），秋季入学制度，優秀な業績に基づき在学期間の短縮を認める早期修了制度，大学院生海外渡航奨学金制度，学部生期間に大学院講義を先取受講し大学院入学後の早期修了をしやすくする科目等履修生制度，5・6年次の学部成績上位者の授業料免除及び大学院進学時の学納金相当額の大学院奨学金給付からなる昭和大学歯学部特別奨学金制度です．日本学生支援機構の奨学金制度を利用する学生も多く，一部成績優秀者では全額もしくは半額の返還免除が認められるケースもあります．

世界でも類を見ないスピードで高齢化が進む我が国では，臨床や研究において自ら考え判断していく能力が生き残るための不可欠の能力といっても過言ではありません．画一的な正答のある環境ではなく，自ら考え判断を下すことのできる能力を身につける必要があります．

大学院説明会は，夏休み前に3回，夏休み後は2回開催し，対象は臨床研修医および本学歯学部6年生としています．基礎臨床18講座から代表者が集い，研究内容だけでなく臨床の活動，大学院生の生活ぶりや就職状況など多彩な情報をスライドを用いて発信しています．学外からの参加も有り，講義や臨床研修終了後17時半から開催される説明会（第2，4，5回）には例年30名程度の参加があります．毎回異なる顔ぶれの方が参加されているようですが，11月8日（水）の第5回説明会には20人の参加がありました．本年は合計73名の参加者数となり，一昨年以降増加となっています．

全力を挙げて研究や臨床にぶつかり，輝かしいデンティストとして活躍されることを期待しています．

平成29年度永年勤続者表彰式が開催されました

歯学部長　宮﨑　隆

去る11月14日（火）午後5時から上條講堂において，学校法人昭和大学の平成29年度永年勤続者表彰式が執り行われました．

今年度の表彰対象者は昨年度よりは若干減りましたが，勤続35年25名，25年64名，15年114名の合計203名でした．小口勝司理事長から，長年大学の発展に貢献していただいた永年勤続者に感謝とねぎらいの挨拶があり，各勤続年代表者（35年代表：富士吉田教育部松永准教授，25年代表：薬学部柴沼教授，15年代表：歯学部佐藤教授）に，表彰状と記念品が授与されました．昭和大学宣言に引き続き，校歌を斉唱し，壇上で記念撮影を行いました．

会場を移して，タワーレストラン昭和で懇親会が開催され，思い出話に花を咲かせました．

歯学部・歯科病院関係の表彰者は以下の通りです．（敬称略）今後も益々お元気でご活躍されますようお祈り申し上げます．

35年：境野利江（歯科放射線科），鈴木春美（歯科病院事務課），中澤　緑（歯科病院歯周病科）

25年：堀田康弘（歯科理工学），関　健次（歯科放射線科），西野智美（歯科放射線科），齊藤由美（歯科病院事務課），千葉克美（歯科病院中央放射線室），山田美紀（歯科病院歯科衛生士室）

15年：佐藤裕二（高齢者歯科学），弘中祥司（口腔衛生学），宮本洋一（口腔生化学），田中晋平（歯科補綴学），立岩美理（歯科病院事務課），茂木香苗（横浜市北部病院歯科室）

インフルエンザワクチン接種について

総合内科学部門　井上　紳

2017／18年シーズンのインフルエンザの流行につきまして，厚生労働省からの最新の発生報告（第42週：10月16日～10月22日）をみますと，すでに大都市圏（千葉，東京，神奈川，大阪，兵庫）と沖縄で相当数の報告がみられます．1才から4才の幼児や70才以上の高齢者では各年代30人前後の入院報告もみられます．ただし昨年度の同時期に比べますと総患者数は65％ほどです．昨年は早いシーズン入り（第46週11月14日～）でしたが，例年の傾向を鑑みますと本年度のシーズン入りは第48週（11月27～12月3日）以降かと推察されます．例年12月から3月にかけて流行するインフルエンザですが，すでに教職員の発症が報告され，流行には十分な注意が必要です．国立感染症研究所のデータによる型別発生状況では昨シーズンはAH3亜型が主流で，次いでB型でした．今シーズンはこれまでにAH1pdm09が23株，AH3が15株，B型（すべて山形系統）が14株検出されています．今後，インフルエンザの流行期を迎えるにあたり，飛沫感染対策としての咳エチケット（有症者は自身がマスクを着用する），接触感染対策として手洗い等の手指衛生を徹底する，等が重要で

す．昭和大学歯科病院では11月7日，24日に教職員に対して予防接種を予定しています．早めの対策をお願いいたします．

D1地域連携歯科医療実習Ⅰが実施されました

富士吉田教育部　前田　昌子

9月4日～26日まで富士吉田教育部では初年次体験実習が行われました．この実習は本学初年次教育のなかでも最大の実習で，1年生約600人を学部混成のグループに分け，福祉施設見学（3日），病院見学（1日），BLS（心肺蘇生）実習（1日），学部実習（3日）これに加え在宅医療実習の一貫として高齢者宅訪問（1日）という内容をローテーションで行います．初めの1週間は事前準備として，実習先についての調べ学習，学部実習の概要説明が行われました．学部実習の概要説明では同窓会会長の小原希生先生，馬見塚賢一郎先生にお越しいただき，歯科医師会での活動，都心の歯科診療所の様子を中心にお話いただきました．

翌週から始まった歯学部実習は「地域連携歯科医療実習Ⅰ」に位置付けられ，3年生で行われる（同Ⅱ），5年生の（同Ⅲ）へと続く初めの実習です．Ⅰでは富士吉田市内だけではなく山梨県内の歯科診療所にご協力いただき2人1組で1日歯科診療所見学をします．

1日目は自己紹介ポスターの確認，ケーシー白衣の身だしなみチェック，患者誘導やエプロンかけの練習，手洗い実習などを行いました．昼食後には診療所へご挨拶の電話をかけました．固定電話へかける機会が減った学生たちは何度も練習をし，実際に通話が始まると非常に緊張していました．2日目は診療所見学を行いました．緊張した面持ちで出発した学生たちも帰寮時には「〇〇をさせていただいた～」と笑顔いっぱいに報告してくれ，充実した実習であったことがうかがえました．3日目は前日見学してきた内容をまとめ，発表をしました．診療所ごとに工夫をしてくださっていることが伝わる発表でした．この実習が終わると学生達は歯科医師になるというモチベーションが上がり，大きく成長してくれます．

山梨県歯科医師会と提携したこともあり，本年度も新しく3件の歯科診療所にご協力いただきました．また，本実習の実施にあたり旗の台の教員にも多数ご協力いただきました．この場をかりてお礼申し上げます．

スペイン　サラゴサ大学を訪問しました

歯学部長　宮﨑　隆

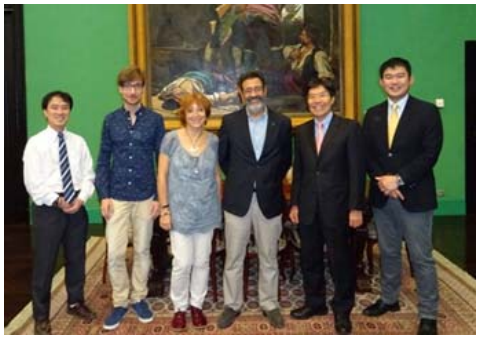
去る10月4日に，スペイン北部アラゴン州立のサラゴサ大学を訪問しました．サラゴサ大学は1542年設立のスペインでも有数の歴史を持つ総合大学であり，22学科を擁し4万人以上の学生が学んでいます．

本学精神医学講座の真田講師が留学したことをきっかけに，本学医学部学生が毎年数名臨床実習に参加しています．また，次年度はサラサゴ大学精神科の臨床心理士と，総合内科の医師を本学に受けいれます．両大学交流の覚書（MOU）締結を進めるのが今回の訪問の目的でした．

サラゴサ市にある大学本部を訪問し，国際交流担当副学長である Beltran 教授と面談しました．歴史的な建物で，正面の階段の前には医学と科学のシンボルとしてヒポクラテスとアリストテレスの大きな彫像が飾られていました．本学学生の指導をしてくれている医学部総合内科の Magallon 教授を交えて，MOUの最終案を至急詰めることにしました．

Beltran 教授は考古学が専門で，古い蔵書を管理している図書館や市民にも開放している博物館を案内してくれました．サラゴサ市自体が2000年の歴史を有し，ローマ時代の遺跡や世界遺産に登録された大聖堂を歴史学科の教員の解説で案内してもらいました．

サラゴサ市よりさらに北方のウエスカ市に歯学部のキャンパスがあります．今回，歯学部長の Morticelli 教授が本部に顔をだしてくれ，歯学部交流に関する情報交換を行ないました．歯学部は2006年に創立の新しい学部であり，1学年36名で5年制です．ヨーロッパは日本のモデルコアのようなEU共通のカリキュラムが制定されており，学生は半年・1年の単位でEU 圏の他大学で学ぶことができるとのことです．サラゴサ大学は南米から短期間の選択実習生を受け入れており，研究活動を含めて本学歯学部との交流プログラムの締結に向けて協議を進めることにしました．



行事予定

広報委員長　中村　雅典

11月25日（土）　：昭和学士会総会
11月28日（火）　：第二延山小学校校外授業
12月　2日（水）　：大学院Ⅰ期入試
1月13，14日（土，日）
　　：大学入試センター試験
1月25日（木）　：歯学部選抜Ⅰ期入試

日本歯学系学会協議会第８回シンポジウムを開催しました

歯科理工学部門　宮﨑　隆

平成29年11月12日に昭和大学1号館7階講堂で日本歯学系学会協議会の第8回シンポジウムが開催されました．今回のシンポジウムでは，常任理事の矢谷博文先生の座長のもと，「口腔健康管理」と題して4名の先生方が講演されました．

最初に，静岡県で開業しながら誤嚥性肺炎に関する著書も出されている米山武義先生が，自ら経験した特別養護老人ホームでの口腔ケアについてお話しされました．その時の経験をもとに，これからの歯科医院は在宅医療や誤嚥性肺炎・低栄養予防などにシフトしていくこと，地域完結型医療へと変化する必要があることなどを力説されました．

次に，日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック院長の菊谷武先生が，同病院が取り組んでいる様々な地域医療についてお話しされました．8020運動が成果を上げた現在，多数歯の残存，あるいは，インプラント埋入された要介護者の口腔ケアがどのような問題をはらんでいるのかも紹介されました．

続いて，市立池田病院歯科口腔外科主任部長の大西徹郎先生からは，急性期病院におけるチーム医療のメンバーとして歯科がどのようにかかわってきたか話されました．中でも，院内の電子カルテに術前口腔ケアの項目を導入し，医師から直接口腔ケアの依頼が出せるようになったことで，術後の感染リスク低減などに効果を上げ，病院の収益が2％向上したとご紹介されていました．

最後に，神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科准教授の金久弥生先生からは，歯科衛生士が多職種連携を行うためには，相互に共通言語を持ったアプローチが重要であると話されました．しかし，現在全国で約11万人いる歯科衛生士のうち，大部分は歯科診療所勤務で，病院歯科など多職種連携の場で働く人の数は5千人程度しかいないのが残念であると話されていました．

4名の演者の講演後は総合討論が行われ，今後，被介護者に対する口腔健康管理には，明確な基準を定め，その人のライフサイクルに合わせたゴール設定やそのための多職種連携が重要であることなど，活発な討議が繰り広げられていました．

受　賞

広報委員長　中村　雅典

・第54回日本口腔組織培養学会

平成29年11月4日，岩手医科大学において開催された第54回日本口腔組織培養学会において以下の3名の先生方が受賞されました．

・学術奨励賞　　金子　児太郎（口腔生化）

私は本学会で「平成29年度日本口腔組織培養学会学術奨励賞」を受賞させていただきました．この賞は，今年度この学会誌に投稿した論文の中に送られる賞ですが，私が投稿した「一酸化窒素の新規シグナル分子 8-nitro-cGMP：その骨伸長における役割」という論文が幸運にも受賞することができました．身に余る評価を頂き，大変恐縮しております．これまでご指導下さった口腔生化学講座の上條竜太郎教授と宮本洋一准教授，そして多くの先生にこの場を借りて心より感謝申し上げます．

・ベストプレゼンテーション賞　十九浦リサ（口腔生化）

本学会は口腔組織・細胞培養という研究手法を共通に，臨床系および基礎系の多彩な分野の研究者が集う学会です．様々な分野の先生方の発表は新鮮でとても刺激になりました．私は「活性イオウ分子種は破骨細胞分化を促進する」という演題で発表を行いました．発表はとても緊張しましたが，幸運にもベストプレゼンテーション賞を受賞させていただくことができました．これまでご指導下さった口腔生化学講座の上條竜太郎教授と宮本洋一准教授，そして多くの先生方にこの場を借りて心より感謝申し上げます．

・ベストプレゼンテーション賞　笹　清人（口腔生化）

他大学の大学院生の発表も多く，大変有意義な時間を過ごすことができました．私は「モノカルボン酸トランスポーター1 は p53 の抑制を介して骨芽細胞分化を正に制御する」という演題で口頭発表を行いました．幸運にもベストプレゼンテーション賞を受賞することができました．これまでご指導下さった口腔生化学講座の上條竜太郎教授と吉村健太郎助教，そして多くの先生方と関係者の方々に心より感謝申し上げます．今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます．

編集後記

歯科理工学部門　堀田　康弘

紅葉が見ごろを迎え，急に寒い日が続きますが，気象庁によるとこの時期としては36年ぶりの寒さだそうです．さて末筆ながら，ご多忙の折ご寄稿下さいました方々には，この場を借りて厚く御礼申し上げます．